

## I. 「旅館業」業界の動向

### 1. 旅館業の動向

#### (1) 業界の特性

旅館などの宿泊施設はすべて旅館業法の適用を受け、その営業には都道府県知事の許可が必要である。同法の宿泊施設の分類は、旅館・ホテル・簡易宿所・下宿の4種類である。

業界の特性としては以下の点があげられる。

一般に資本集約型の装置産業として多額な設備投資が必要である。したがって、人件費などの固定費の比率が高くなっている。

また、需要に季節性があり、売上高が客室数により制限されていることで、弾力的な経営が出来にくくなっている。しかし、いったん好評価を得れば安定した収益が見こまれる。

#### (2) 施設数の推移

旅館営業の施設数の推移をみると、平成8年(平成8年12月末)で70,393軒であったが年々減少し、平成12年度末(平成13年3月末)には64,831軒となっており減少傾向に歯止めがかからない状況である。また、1旅館当りの客室数の推移を見ると規模の拡大が進んでいることがわかる。

ホテルでは、平成8年(平成8年12月末)で7,412軒であったが年々増加し、平成12年度末(平成13年3月末)には8,220軒となっており、旅館と対照的である。また、1旅館当りの客室数の推移を見ると規模の拡大が進んでいることがわかる。(表-1)

表-1 旅館・ホテル数、客室等の推移

	旅館営業			ホテル営業		
	施設数 (軒)	客室数 (室)	1軒当り平均客室数	施設数 (軒)	客室数 (室)	1軒当り平均客室数
8年	70,393	1,002,024	14.2	7,412	556,748	75.1
9年度	68,982	982,228	14.2	7,769	582,564	75.0
10年度	67,891	974,036	14.3	7,944	595,839	75.0
11年度	66,766	967,645	14.5	8,110	612,581	75.5
12年度	64,831	949,956	14.7	8,220	622,175	75.7

(資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「衛生行政業務報告」)

### 2. 国内観光の動向

#### (1) 国内観光市場の動向

国内の観光市場の動向を示したものが(図-1)である。

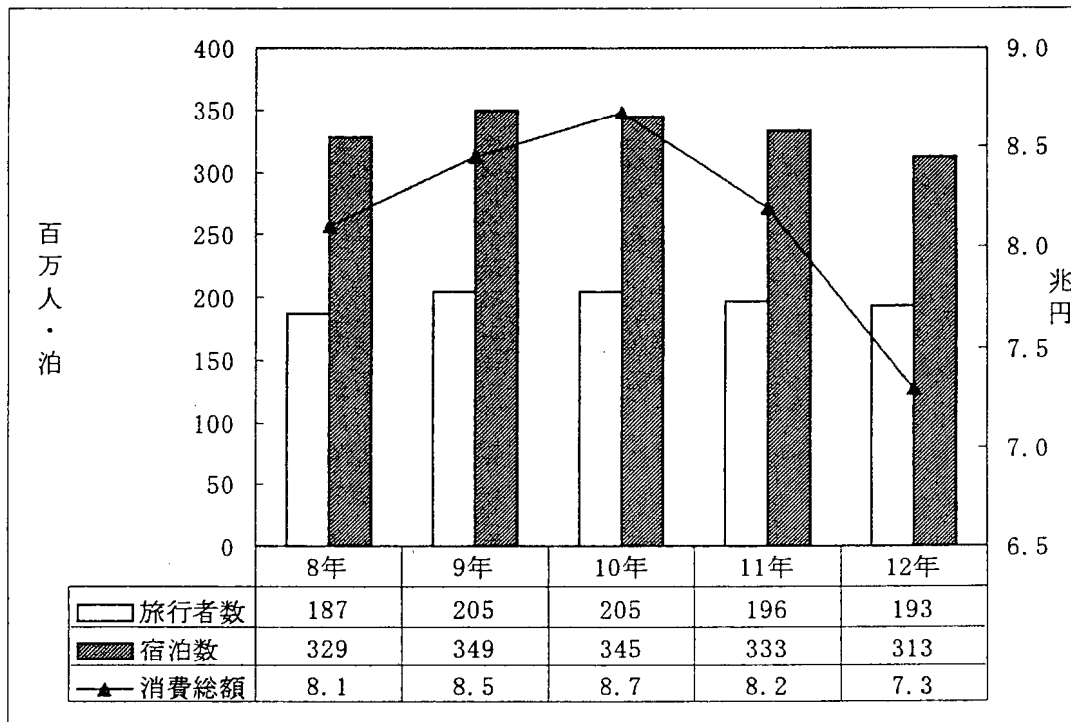
旅行者数(年間延べ)は平成8年の2億500万人をピークに年々減少しており平成12年度末では2億人を割り込み1億9千3百万人であった。

また、宿泊数の推移をみると、平成9年の年間349泊をピークに漸減しており平成12年度末では313泊であった。

従って、消費総額の推移ををみると平成12年度末で7兆3千億円とな

り過去5年間で8千億円の市場が消滅したことになる。

図-1 国内観光旅行市場の動向

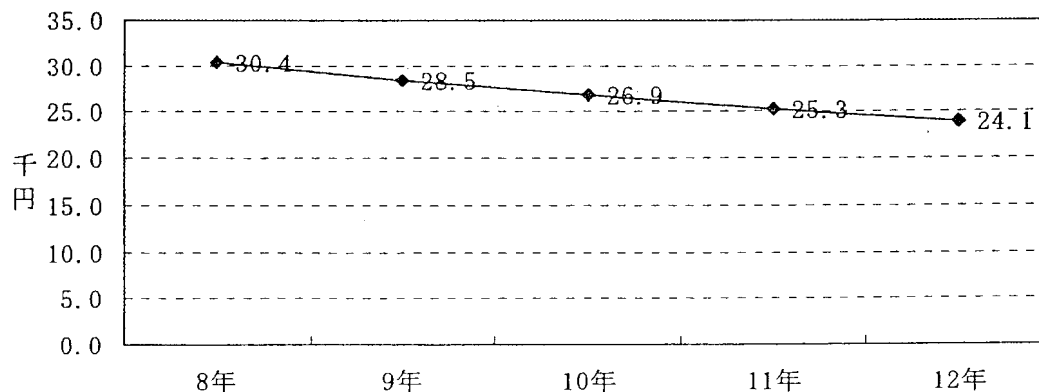


(資料：国土交通省 観光白書13年版)

(2) 低価格化傾向

国内観光旅行に対する支出額の減少の原因の一つは旅行商品の低価格化が進んでいることである。需要が減少していることで競争が激化し、旅行会社や旅館・ホテル等の業者が積極的に低価格商品を開発し、顧客の獲得を図っている。国内旅行ブランド商品の1人当り取扱高は、平成8年では30,400円であったが5年後には24,100円と20.7%減少している。(図-2)

図-2 国内旅行ブランド商品の1人当り取扱金額 単位千円



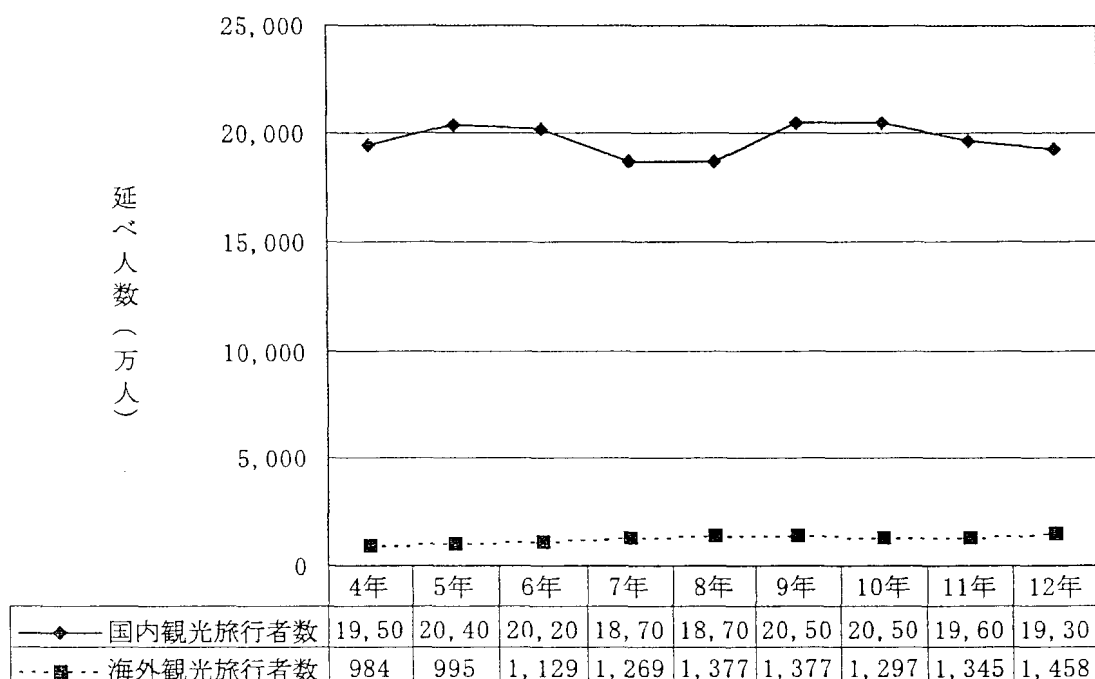
資料 国土交通省 「主要旅行会社50社の旅行取扱状況」

### (3) 海外旅行の動向

国内観光の旅行者数が2億円前後で推移しているのに対し、海外旅行の旅行者数は増加傾向が続いている。(図-3 海外旅行者数の推移)

平成12年度の延べ海外旅行者数は1,468万人となり平成4年度の984万人と比較しても約1.5倍に伸びている。これらの理由としては、航空券の低価格化や円高による旅行価格の割安感が増しているためと考えられる。

図-3 海外旅行者数の推移 単位：万人



### (4) 旅行ニーズの多様化

国内観光旅行のスタイルはかつての団体旅行から家族や友人とマイカーで近くの観光地に連休を利用して出かけるといったスタイルになって来ている。また、期間も長期周遊型から1泊2日を近隣の観光地で過ごすような短期滞在型に変ってきている。そして長期休暇を利用する旅行に関しては国内観光旅行よりも海外旅行を選択することも多くなっており、国内観光旅行は短期が主流の「安」(旅行商品の低価格化)・「近」(近距離)・「短」(短い日数)化している。

このように旅行が団体から夫婦・家族や小グループの個人にセグメント化することにより旅行に対するニーズも多様化している。また、近年は消費者が旅行経験も豊富になり旅行に関しての情報も容易に手に入れられるようになったことから、旅行に対する要望は非常に詳細かつ高度なものになっており、より一層の多様化が進んでいると考えられる。